

今がんばっています

前浜小学校

前浜小学校では、小中連携校の利点を生かしながら、地域住民や保護者が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」の導入に向けて準備を進めています。学校にとっても、地域にとっても実のある取り組みになるよう、試行錯誤の真最中です。

1 漁業を学び郷土愛を育成

27回目を迎えた「ふれあい体験学習」は、子どもたちが地域の自然や産業などを学ぶ大切な学習の場です。漁業研究会の皆さんにご協力いただき、調理加工実習や乗船体験、活魚ふれあいなどの体験学習を行っています。



20人強の子どもを育てるために、約3倍もの大人が集い、学校を元気にしてくれています。

2 運動を通じた地域づくり

例年、前浜小・中学校、前浜地区の「合同運動会」を開催し、各地区分館連絡協議会や保育園の皆さんからご協力いただき、大人も子どもも一体となっ

て、競技を楽しんでいます。

子どもは体力向上はもちろん、地域の健康増進、コミュニティ活性化に寄与しています。



3 地域と学校の活性化

日ごろから力を貸してくださる地域へ感謝の気持ちを込めて、子どもたちが袴紙を作成し配布しているほか、学校を会場に名作映画上映「前浜シネマ」を開催しています。

さまざまな行事に地域の大人が参加することにより、子どもたちのためだけでなく、大人も学校を意識し、地域と学校が共に活性化することを目指しています。

教育委員会学校教育課

☎58-7351



世界遺産登録に向けて

鉾山町あいかわ・下町散策④

相川五郎左衛門町の周辺

相川には、古くから特徴的な町名が残されています。その中でも下町には、「五郎左衛門町」という人名の付けられた町名が今も残ります。

宝暦年間（1751-1763）に書かれた「佐渡相川志」によると、江戸時代の寛永（1624-1645）年中に五郎左衛門という者が、この辺りの土地を開発したことで、名前を採って「五郎左衛門町」になったといわれています。

同誌には絵図も描かれており、五郎左衛門町には、玉泉寺、来迎寺、金剛院、円行寺、万福院、金比羅と、寺社が集合している様子がわかります。これらの寺社は現在も、多く残されています。

五郎左衛門町と隣接する羽田村には、市指定の記念物（史跡）黒沢金太郎窯跡があります。金太郎窯は、寛政12（1800）年に初代黒沢金太郎により創始され、明治初期まで約70年間続いた本格的な施釉陶器を作る窯元でした。島内の需要に対応した生活雑器の焼成技法と量産技術を確立したことで知られ、製品は島外にも売り出されたといわれています。



金太郎焼印花地向付

昭和47（1972）年に窯跡の発掘調査が行われ、最盛期の窯は幅約4m、長さ約16m、8室の焼成室を有する急勾配の大型登窯であったことが明らかになりました。

窯は瀬戸・美濃焼の系譜をひく自然の地形を利用した構造であったと考えられています。また、金銀鉾石の製錬滓であるカラミや土灰を釉薬に使用した生活雑器類や窯道具類などが多く出土しました。佐渡の焼物の研究史における重要な史跡が、今も下町に残されています。

世界遺産推進課

☎63-5136